



学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

CHAPTER 10

東北学院大学博物館

さとうとしゆき
嘱託学芸員 佐藤 敏幸さん



2020年4月から東北学院大学博物館に勤務しています。以前は東松島市教育委員会生涯学習課・奥松島縄文村歴史資料館に勤めていました。11年前に東北学院大学博物館が開館するときにも展示に携わったので、母校の博物館でもありここに勤務することは感慨深いものがあります。

当博物館は大学所蔵の資料、歴史学科教員の研究成果など大学の活動を広く展示公開する施設です。併せて学芸員を目指す本学学生の実習の場としても利用されています。展示室内は教員と学生や大学院生(学芸研究員)が中心となって展示を企画しています。



展示のポイントはココで～す

わたしは通常の学芸員業務のほかに大学の博物館実習(学内実習)、夏季および春季の館園実習も担当しています。学生が授業で身に付けた知識、技術を館園実習をとおしてさらに実体験としてブラッシュアップできるという効果があります。残念ながら今年はコロナ禍で、未だ学内のみの開館にとどまっています。学芸研究員や教員・学生の研究成果を展示という形で早く公開できるのを心待ちにしています。

直近の
オススメ情報

『KOREMITE—東北学院大学博物館収蔵資料目録—Vol.6』12月刊行予定!
文化財レスキューからの蔵出しとコロナ禍の博物館活動ほか



SMMAとは

知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学 仙台・宮城ミュージアム情報局

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみならず、旅行で訪れた方々にもおおいに役立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。

www.smma.jp



発行・問い合わせ先: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) 事務局 仙台市青葉区春日町2-1 (せんだいメディアテーク内)
tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482 email: office@smt.city.sendai.jp website: https://www.smma.jp
編集 / SMMA事務局 デザイン / ANTWORKS イラスト / よしだみさこ 発行日 / 2020年10月30日 掲載した記事・情報は発行日の段階のものです。

この紙はリサイクルできます

2020 秋号 旬の見験楽学便

「旬の見験楽学便」を片手に

ひとりで歩く見験楽学ツアー
片平キャンパス歴史散歩一偉人編

仙台ミュージアム情報誌
SENDAI MUSEUM INFORMATION MAGAZINE
SHUN NO KEN KEN GAKU GAKU BIN



ミュージアム de ブレイクタイム

ふだんはグッズや周辺の飲食店など、それぞれのミュージアムを訪れた際に一息つける話題を取り上げるこのコーナーですが、今回は少し趣を変えてSMMAに関わるお知らせをふたつ。

TOPIC 1 Book せんだい見験図鑑 SMMA10周年を記念した冊子の発行

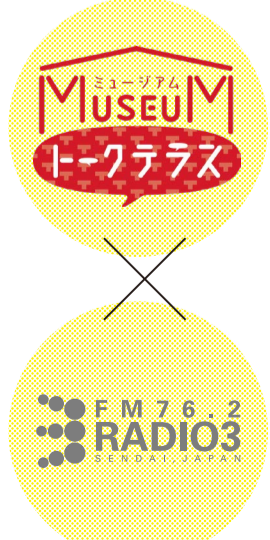


仙台のミュージアムの集まりであるSMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)がはじめてから10年が経ちます。このたび、それを記念し1冊の本をつくりました。しかし、よくある記念誌ではありません。この本を持って、まちなかを歩きながら身近に体験できる、さまざまな「たからもの」や「おもしろいもの」の案内役になるような本です。

書名: せんだい見験図鑑 (せんだいけんけんずかん)
A5版 / オールカラー / 48ページ / 無料
内容: 化石 / 城の石垣 / 市電 / まちを彩る祭り今昔 / さえずりの季節 / 木の実 / 石 / 文化の居場所 / 時計 / 水 / 未来への取り組み / 出会う場所 MAP
取扱: SMMA 参加館にて配布

TOPIC 2 Radio SMMAミュージアムトークテラス・ラジオ ラジオ番組スタート

ミュージアムの魅力はさまざま。貴重な資料や作品、建物はもちろんのこと、それぞれの専門性を持ってそこで働く人たちも実に豊かな個性と話題の持ち主。そんな魅力的な人々を招いて、せんだいメディアテーク1階クレプスキュールカフェを会場に開催してきた『SMMAミュージアムトークテラス』を、ラジオに場を移して開催します。これまでと変わらずユニークなテーマと内容で、どこからでも聴けるスタイルになったトークテラスをぜひお楽しみに。



番組名: SMMAミュージアムトークテラス・ラジオ
放送局: コミュニティFM ラジオ3 (76.2MHz)
放送日: 毎月第2木曜日 20:00~21:00
※スマートフォン・アプリ「ListenRadio」(リスラジ)、ウェブサイト「ListenRadio」(http://listenradio.jp/)でもお聴きいただけるほか、放送後は、ウェブサイト見験楽学でもアーカイブを公開する予定です。



狩人 (旧石器時代人) (約2万年前頃)

富沢遺跡では約2万年前(旧石器時代)の焚き火跡などがみつかることから、地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)に現れる狩人はそのころの人と思われる。現代の私たちと同じホモ・サピエンスに属する。



注: 狩人のみなさんは現代の言葉を使えないため、地底の森ミュージアム職員にうかがいました。

SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。人を知って、收藏品をもっと身近に、もっと楽しく。

地底の森ミュージアム周辺に狩りをしに

旧石器時代人は定住ではなく狩りを中心とした移動式の生活をしていました。槍を使って狩りをしていたようです。彼らは地底の森ミュージアムに時空を超えて不定期にやってきて、野外にいたり、時には館内に入ってくることもあります。「あ、今日も来たね」という感じです。言葉は通じませんが、職員もだいぶん仲良くなってきて名前を覚えてもらったり、おおよそいつ来るかわかるようになりました。狩りをしに来ているようですが、鹿の革と木でつくったテントを建てて寝たり、黙々と道具を直したりもしています。そういうときには職員がかわらで何をしているか解説したりもします。



火をおこしたり、石器づくりに没頭している



鹿の革で覆われたテント

当時の人たちの生活を理解する橋渡しに彼らに会ったら、急に近づいたりせずそっと見守っててください。現代人に驚いたりするかもしれないので、このごろは写真を撮ることを「カシャ」と憶えてくれ、フラッシュをたかなければ驚かずしてくれます。彼らとの出会いは、石器や解説パネルだけでは伝わらない、当時の生活のようすを多くの来館者に知っていただく良い機会になります。

ここでもっと知る!
地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)
〒980-0841 仙台市太白区長町南4-3-1 ☎ 022-246-9153
開館時間: 9:00~16:45 (入館は16:15まで)
休館日: 月曜(祝日は開館)、休日の翌日(土・日・休日にあたる日は開館)、1~11月の第4木曜日(休日は開館)、年末年始
料金: 大人460円 高校生230円 小・中学生110円 (団体料金等あり)

地底の森ミュージアムからのお知らせ
第94回企画展 「発掘!むかしのみやぎめし」
2020年11月13日—2021年1月11日

「旬の見験 楽学便」 を片手に

ひとりで歩く 見験楽学ツアー

片平キャンパス歴史散歩—偉人編—

毎回好評の「見験楽学ツアー」、昨秋(2019年)のツアーは不運にも台風で中止になってしまい、いまは新型コロナでソーシャルディスタンスな日々。そこで、「旬の見験楽学便」を片手にひとりでできる見験楽学ツアーとして、あらためて「片平キャンパス歴史散歩—偉人編—」をお送りします。



監修：加藤諭
(東北大学史料館准教授)

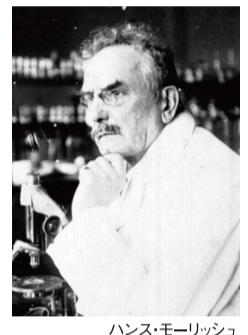
東北大学創設の地である片平地区は、仙台医学専門学校や旧制第二高等学校など、明治期以来の登録有形文化財をはじめとして、歴史ある建築物が今なお活用されながら残っています。また教育・研究の場として多くの学生が学び、多くの偉人が輩出されてきたこの地は、碑や公園、記念室などを通じて、その歴史の雰囲気を感じることができます。

START

- 1 東北大学史料館
- 2 眞島利行先生像
- 3 魯迅先生像
- 4 小川記念園
- 5 ハンス・モーリッシュの樹
- 6 乃木將軍遺愛の松
- 7 本多記念館／本多光太郎先生胸像
- 8 魯迅の階段教室 **GOAL**

5 ハンス・モーリッシュの樹(1925年)

東北帝国大学の生物学科の増設に伴い招聘されたのが、植物生理学の世界的権威だったウィーン大学のハンス・モーリッシュ(1856-1937年)。彼は在職中に「光合成の明反応」を発見しました。帰国後は、ウィーン大学総長になったほか日本文化の体験記も著しました。この杉の木は彼が自らの研究生生活を記念して植樹した5本のうちの2本です。



ハンス・モーリッシュ



6 乃木將軍遺愛の松

乃木希典(1849-1912年)は日清戦争で名をあげた後、1896年に陸軍第二師団長として仙台に着任し、庭先に松が植えられた片平地区の官舎で約7か月間過ごしたと言われています。時を経て、本多光太郎の在職25周年記念事業のため土地を買収した際に、本多がこの古い松を惜しみ、ここに移植し石碑を建てました。



7 本多記念館(1941年)／本多光太郎先生胸像(1958年)

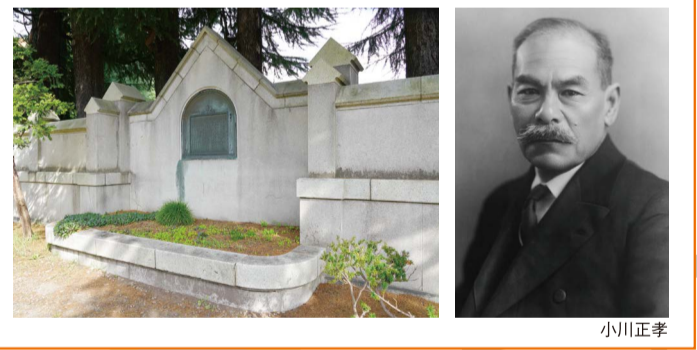
今年生誕150周年にあたる本多光太郎(1870-1954年)。本多記念館は、金属材料研究所の設置に尽力し、後に大学総長にもなる彼の在職25周年を記念して計画され1941年に竣工した鉄筋コンクリート造3階建ての建物。記念館のなかには、「本多記念室」「資料展示室」が併設され、本多が使用していた実験ノートや金属材料研究所が開発に携わった製品などが展示されています。



※当面閉館中。

4 小川記念園(1933年)

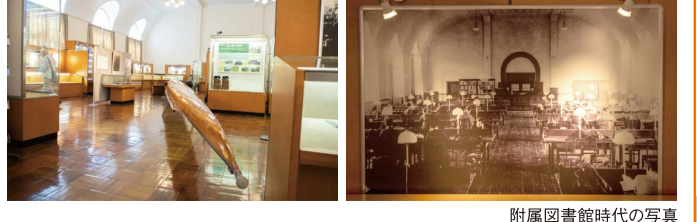
東北帝国大学理科大学の初代学長で、研究者として初めて総長となった小川正孝(1865-1930年)。新元素「ニッポニウム」の解明に情熱を注ぎ(後に「レニウム」であると判明)、後進の研究者に大きな影響を与えました。東北大学の基礎を築くために工学部の運営や理学部の拡充・整備にも尽力した彼を偲び、この公園が整備されました。



小川正孝

1 東北大学史料館／旧東北帝国大学附属図書館閲覧室(1926年)

小倉強が設計したロマネスク様式の建物で、外壁の煉瓦張りと漆喰塗、アーチ型の窓は当時の雰囲気を残します。1963年、大学附属図書館内に東北大学の歴史に関する資料の保存・公開を目的とした「東北大学記念資料室」が開設された後、現在の施設として独立しました。大学の歴史を紹介する展示や貴重な建造物の内部を見ることができます。



附属図書館時代の写真



8 魯迅の階段教室／旧仙台医学専門学校六号教室(1904年)

建物内部は、東側に講壇を配した教室一室のみです。魯迅が学んだ場所として知られ、「魯迅の階段教室」という呼称で親しまれています。中国からの来訪者の名所で、1998年には江沢民主席(当時)が訪れ、国境を越えた歴史遺産となっています。



※当面閉室中。2021年再開予定。

2 眞島利行先生像(1994年)

東北帝国大学理科大学(現東北大学理学部)の初代教授である眞島利行(1874-1962年)は、漆の成分であるウルシオールをはじめ日本の有機化学を拓く研究成果をあげました。次世代への育成も熱心で、日本の化学分野を国際水準にまで高めたほか、日本最初の女子大学生の一人、黒田チカの恩師でもあります。この像はその栄誉を讃え、生誕120周年を記念して建立されたものです。



3 魯迅先生像(1992年)

「中国近代文学の父」と称される魯迅(ろじん／本名：周樹人／1881-1936年)は、1904年に仙台医学専門学校(現東北大学医学部)へ入学後、約1年半の在学中に文学への転身を決心します。後に在学時代の恩師・藤野巖九郎先生との交流を綴った短編小説『藤野先生』を発表します。この像は、生涯の転機となったこの地に記念として建立されました。

